

Shining ほいく



第46号令5年12月13日：編集・発行 保育運営課 研修担当

『shining ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining ほいく』を活用していただけたら幸いです。

～「shining ほいく」お役立ちポイント～

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と話すときに『参考になる。』
- ② 他園で研修をどのように活用しているか知りたい時に『ためになる。』
- ③ 保育を見直したい時になるほど！と『気づきがある。』



保育におけるSDGsを考える

令和5年10月12日 講師 東京家政大学 佐藤康富先生

まずは4園の実践報告発表があり、発表を聞いて4～5人のグループで参考にしたいことや自園で活かしたいこと、各自の園の取り組みなどを話し合いました。

日頃から対話をしないとSDGsは広がらない



様々な国の人が暮らしているスウェーデンの保育園は…
白人、黒人、障がいのある人、老人など、
色々な人形を用意しているそうです。
文化の違いは対話していくことで受け入れられるようになります。

保育の中でSDGsをどのように考えるのか？

- ・自然の美しさや不思議さを味わう
- ・面白さや疑問、問題を探求する
- ・人やモノを大切にする

共に保育者もその世界を味わうこと！



心が動かされないと変わらない
知識だけでは変わらない
行動に移せる人をどう育てていくのか

こどもの声を聴く 出来ない
理由を探さない！

日常の保育の中にSDGsの持続可能な
担い手を育む種がある

子どもの気づきや思い、楽しさに共感することから始まる

他園の事例から SDGs を考える

① つばめとの出会い、命に出会う

子どもたちがやっていることを驚いて捉えよう！子どもたちが何を思っているのか考えることが大事！

ドキュメンテーションは保護者向けだけでなく、子どもたち向けにすることもできる。それを見ながら経験したことの振り返りをしたり、対話ができる。



② 子どものなぜから広がる保育～モノを大切に、命あるもの、支える人への思い～

子どもの声を聴こう
できない理由を探さない

子どもと探究する保育を♪

ドライフルーツの絵本を借りてきた
↓
ドライフルーツを作りたい！干しかごが欲しい
↓
干しかごはどこに売ってるか自分たちで考え、探しに行く
↓
地域の方との出会い

③ 大縄跳びの記録更新を目指す！～友だちとのかかわりの中で育つ気持ち～

嬉しい、悔しい、悲しい、楽しい…共感してもらった経験から、共感できるようになる。

壁にぶつかった時に、誰かが助けてくれた経験があると、同じ状況になった友だちの気持ちが分かる。助けてあげようとする。



**大きな話題と共に
子どものつばやき、子どもの心の成長など
保護者に伝えていこう♪**



さあ！次のページは4園の実践例です！

板橋保育園の取り組み

保育の中での SDGs ～遊びながらできること～

【園内研修で『保育の中での SDGs』を探しました】

「廃材を利用した製作」「みんなで玉入れをして玉の数を数える」「発見した虫の生態を図鑑で調べる」「散歩や体を動かす遊び」等、子どもたちが楽しんでいる活動や遊びの中に、SDGs 17のマークのいずれかをあてはめることができました。

今の保育を大切にしていけば、「SDGs17のゴール」につながっていくことを確認しました。

協力する 笑う 遊ぶ
驚く 工夫する 考える
楽しむ

私たちの
日ごろの保育はSDGsに
つながっている！



たねからすいかはできるのか？

5歳児クラスの事例



給食で食べたすいかの種からすいかはできるのか？（探求心の芽生え）

子どもの疑問から始まった活動を、見守り、一緒に楽しみ、共感した保育は、「SDGs 持続可能な担い手を育む保育」につながったと思います。

たねからすいかがそだったよ！



「ほんとうにすいかなのかな？」「しらべてみよう！」（新たな探求心へ）



発見や工夫を楽しもう



ごみを作らない、投げ捨てないことから始めよう



みんなで協力して
目標を達成しよう



自分の意見を言い、人の意見を聴こう

【日常保育の中の SDGs を子どもを介して保護者も一緒に取り組みへ】

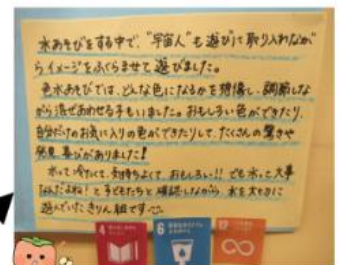
日々の保育を伝えているドキュメンテーションの中に、「この活動のこんなところがこのSDGsにつながっている」ということを、コメントと一緒にSDGs 17のマークをつけることにしました。

ドキュメンテーションボードの前では、子どもと保護者がSDGsについて会話する場面が増えました。

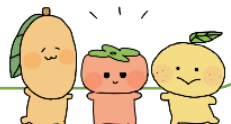
私たち保育士も、よりいっそう、保育の中のSDGsを意識するようになりました。



色水遊び



小さなことでも、少しずつでも、気持ちは育てていくことができるし、行動することができます。遊びながらでも考えることができます。保育の中のSDGs、持続可能な担い手となるよう、自分たちでできることを考える力を育てていきたいと思えます。



赤塚新町保育園の取り組み

1. 「どんぐりパワーでCO²を減らそう作戦」

地球温暖化やCO²による温室効果について、どうすればCO²を減らすことができるか、5歳児クラスに向けて話をしました。「水を出しっぱなしにしない」「エコバッグを使う」など、今すぐできる事を伝えると、「ちゃんとやってるよ！」という子もいました。話をした後に、玄関にくCO²を減らすアクションをみんなでしょう！>というコーナーを作り、保護者も一緒に巻き込んでいきました。



～CO²を減らすアクションの紹介～

玄関にペットボトルとどんぐりを置き、「ごはんを残さず食べた」「使っていない部屋の電気を消した」など、達成できた項目毎に、どんぐりを入れられるようにしました。

送迎時に、親子でアクションを達成できたらどんぐりを1つペットボトルに入れてもらうようにし、日々のアクションが目に見えるようにしてみました。見るだけでなく、触ったり貼ったりする等、楽しめる要素がある方が興味を惹いてもらえるようです。

2. 「身近なお仕事を知ろう！」

子ども達にとって一番身近な社会＝保育園の中で、「保育士」「看護師」「栄養士」「調理員」「用務員」といった職業の人がいるけれど、「どんなお仕事をしているかな？」「いなかったらどうなっちゃうかな？」と対話形式で話をすすめてみました。また世界には、子どもの頃から働かされている子ども達、男の子だから・女の子だからという理由でなりたくてもなれないお仕事があった事、お仕事ができるための勉強がきちんと受けられない国もある、という話をすると、興味を持って聞いてくれました。

最後に自分達が大きくなったらどんな仕事をしたいかを話してもらい、それを絵に描いてもらいました。夢が実現できる未来が、世界中のみんなに訪れるようになるといいね、という話で締めくくりました。



イラストやコメントにマグネットを付けて、ホワイトボードに貼り付けて説明。子ども達の意見はボードマーカーで書き込みもしていきました。

西前野保育園の取り組み



西前野保育園では毎年秋に幼児クラスで環境集会を行っています。保育園や家庭で生活する中で身の回りでも取り組めることは何だろう？とみんなで考えます。

SDGsの17の目標やロゴマークを見ながら「このマークを見たことがあるかな？」と、子どもたちに問いかけると、保育室の様々な所にマークを付けていることを思い出し、「お部屋のゴミ箱についてる！」「手を洗うところを見た！」など子どもの声がたくさんあがりました。

これは実際に水道の模型を使って手を洗う様子を子どもたちと一緒に考えているところです。たくさんのお水を出したり石鹸を何度も出したりする様子を見せると「違うよ！」「もったいなーい！」との声。集会のあとは実際にSDGsのロゴマークがどこにあるか保育室や廊下を探しに行きました。



クラスでも手作りの紙芝居でSDGsについて、子どもたちに分かりやすく伝えていきます。

魚が泣いている絵を見せながら「どうしてお魚は泣いているのかな？」と子どもたちに問いかけてみると、その中の絵をじっくりと見ながら、「おなか痛いかな？」「わかった！ゴミ食べちゃったのかも！」と子どもたちは、魚の周りに落ちているビニール袋やペットボトルを見つけて答えていました。

森、水道、電気が泣いている絵を見せながら一緒に考えていくことで、今自分たちができることは、どういうことなのかを理解していました。



このように幼児期から環境について身近に考えることで、資源を大切に、少し先の未来を考えていくきっかけになれば…と考えています。また、この取り組みによって、子どもたちの暮らしの中で習慣化し、当たり前になっていくことを願っています。今後も、西前野保育園では定期的に集会を行い、各クラスでも、年齢に合わせたSDGsに関する話を伝えていきたいと思っています。

志村橋保育園の取り組み



～食育&環境につながるSDGs「海のお魚さん、死んじゃわない？」～



R4年度、子どもたちの身近にあるものから、SDGsにつながることを考えました。給食の牛乳を飲み切れずに残す子が多くいることも気にしていました。そこで、SDGsの『6：安全な水とトイレを世界中に』『14：海の豊かさを守ろう』につながるよう、自分で牛乳を飲む量を決めて「残さないようにすること」の大切さを話すことにしました。

給食の汁物や牛乳を残すことで、川や海が汚れてしまうことを話しました。コップ1杯の牛乳を流してしまうと、魚が住める位にお水を綺麗に戻すためには、お風呂の湯船9杯分くらいの水が必要であると図や絵を使って話をしました。その話があった日の給食はラーメンでした。「魚が困るから、汁だけは全部飲む」という子がいて、話を聞いたことを意識していました。牛乳の量をコップにそそぐ前に、一人ひとりに飲み切れる量を聞いて配膳します。【食べ物や飲み物を残さないことが、地球を守ることに繋がる】ことを生活の中で知って欲しいと願っていました。



上記の話を受けてから3か月が経ったころ、4歳児と担任と一緒に並んで手を洗っていた時のことです。園児が石鹸のついた手を水で流しながら「せんせい、せっけんであらったおみずは、おさかなさん、しんじゃわない？」と心配そうな顔で質問をしてきたのです。数か月前に保育士が投げかけたSDGsの話が、子どもたちにキャッチされただけではなく、返球されてきたのです。「これはチャンス！」と思い、『水道で手を洗った時に汚れて流れた水は、どのように海まで行くのか？』という話をすることにしました。

下水処理の話も、パネルを使い分かり易く伝え、さらに手作りの濾過装置を作りました。ペットボトルに〈石・砂・炭・ガーゼ〉を順番に入れて目の前で水が綺麗になることが分かる実験をしました。



R5年度は「無駄にしない」「大切に使う」ことを意識して、堆肥を作り緑のカーテンの肥料にしました。また、昨年育てていたオクラの種を保管しておき、今年蒔いて、見事なオクラが100本以上収穫できました。



保育士が子どものちょっとした『気づき』や『つぶやき』を聞き逃さず、その疑問や関心の芽をしっかりキャッチして子どもたちに返した姿がありました。これからも子どもたちと共にSDGsの活動を深めていきます。

